



令和7年4月7日

OECD 幼児教育・保育白書第8部（Starting Strong VIII）が公表され、
日本の「幼保小の架け橋プログラム」が取り上げられました。
また、関連するシンポジウムが開催されます。

経済協力開発機構（OECD）から、「公平で包摂的な幼児教育・保育を目的とした政策への研究の転換（Translating Research into Policies for Quality and Inclusive）」調査研究プロジェクト（2023～2024年）の成果として取りまとめられた「OECD 幼児教育・保育白書第8部 幼児教育・保育への投資による不平等の是正（Starting Strong VIII: Reducing Inequalities by Investing in Early Childhood Education and Care）」が公表されました。本報告書では日本の「幼保小の架け橋プログラム」についても取り上げられています。

また、この報告書の内容等について、東京大学において、OECD 教育スキル局就学前・学校教育課長の講演を含むシンポジウムが開催されますので、お知らせします。

【調査研究プロジェクト概要】

本プロジェクトは、子供の発達、学習、福祉に関する最新の研究を基に、幼児教育・保育の政策を見直し、改善することを目的としている。

幼児教育・保育を通じた、より平等な機会と包摂性の確保が全ての子供たちに対して実現されるよう、幼児教育・保育の質の向上について、また、保護者へのサポートを含む、関係機関等と連携したシステム及びサービスの在り方について、調査研究が行われた。

本報告書では、幼児教育施設と小学校との接続の重要性が述べられ、関連する各国の取組の一つとして、日本の「幼保小の架け橋プログラム」が取り上げられた。

【報告書構成】

- 第1章 公平性と包摂性を支える幼児教育・保育政策：主な調査結果と政策提言
- 第2章 研究成果を幼児教育・保育政策に転換するための方策
- 第3章 子供の発達と機会格差の要因
- 第4章 幼少期の不平等と幼児教育・保育の役割に着目した政策の概要
- 第5章 全ての子供の幼児教育・保育への参加への支援
- 第6章 全ての子供への質の高い幼児教育・保育の提供
- 第7章 幼児教育・保育における包摂性の支援

- 第8章 幼児教育・保育政策の長期的な効果に係るメカニズム
 - 第9章 幼少期からの機会の公平性を強化するための資源配分
 - 第10章 幼児期の政策とサービスの協働
- カントリー・ノート

【公表 URL】

https://www.oecd.org/en/publications/reducing-inequalities-by-investing-in-early-childhood-education-and-care_b78f8b25-en.html

【公表 QR コード】



【主な内容】

- 子供が成長し学ぶ機会は、生まれた環境によって大きく左右され、社会経済的に恵まれない環境、不安定な家庭、教育や保育へのアクセスの制限など、子供が直面する障壁は、生涯にわたる成長と可能性の減少につながり得る。これらの問題は、学力格差を生み出しかねず、それは子供が成長するにつれ克服が困難となる。

- 問題の一部は、恵まれない子供たちが重要な幼児教育・保育を受けられていないことである。データによると、幼児教育・保育への参加、特に0~2歳の子供の参加には社会経済的格差が残っている。また、OECD諸国の幼児教育・保育の質は全体的に比較的安定しているものの、恵まれない子供たちは質の低い幼児教育・保育を受けることが多い。

- 幼児教育・保育は、人生の後半における不平等の解消を目的とした介入とは異なり、学力格差が広がる前にそれを埋める費用対効果の高い方法である。対象を特定した、証拠に基づく幼児期の政策は、将来的に高額な補習教育や社会福祉サービスの必要性を減らすことができる。

- 全ての子供たちに対する公平性と包摂性を改善し、経済と社会に持続的な利益をもたらすためには、普遍的なアプローチと対象を特定したアプローチを組み合わせる政策が必要である。例えば、遊びを基本としたアプローチに、多様性を重視し、基礎スキルを構築するカリキュラムフレームワークを開発することで、子供の発達のあらゆる側面に対応することができる。このためには、全ての幼児教育・保育に関わる教職員の徹底した準備と継続的な研修が必要である。

- 社会的不平等を軽減し、幼児教育・保育のメリットが長年にわたって持続するようにするには、子供と親のための他の社会サービスや保健サービスとの連携、賢明な資金調達とガバナンスなど、部門横断的なアプローチが不可欠である。

- その一つとして、幼児教育・保育とその後の学校のさまざまな段階における接続を改善することが、教育的アプローチの継続性をサポートし、それを子供の年齢に適応させるためにも、必要である。

例えば、日本では幼児教育と小学校教育の円滑な接続の改善を図るための「幼保小の架け橋プログラム」が実施され、このプログラムに参加した地域からは、小学校において、子供たちの幼児教育での経験を意識し幼児教育での遊びや生活経験とのつながりを意識した指導をするようになった、と報告されている。また、登校渋りの児童の減少といった報告もされている。

- 教育と家族への総投資は、幼児期を通じてより安定している必要がある。より強力な人材を育成し、質の高い幼児教育・保育の提供を通し、不平等を減らす政策の実施を支援するために、幼児期政策への公的資金を増やす必要がある。

【シンポジウムの開催】

- 報告書の内容については、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（CEDEP）主催により、以下のとおりシンポジウムを開催予定。

2025 年度 CEDEP 公開シンポジウム

「公平で包摂的な幼児教育・保育の実現に向けて～OECD 幼児教育・保育白書第 8 部より～」

日時：令和 7 年 4 月 18 日（金）17:00～19:00

会場：オンライン開催（事前申込制・当日まで受付可）

プログラム：

講演 小原 ベルファリ ゆり（OECD 教育スキル局就学前・学校教育課長）

補足 野澤 祥子（東京大学 CEDEP 特任教授）

『幼保小の架け橋プログラム事業について』

ディスカッション 前田 幸宣 文部科学省初等中等教育局幼児教育課長

門田 理世 西南学院大学人間科学部教授

秋田 喜代美 学習院大学文学部教授 東京大学名誉教授

（シンポジウム QR コード）



- 問い合わせ先：[: cedep@p.u-tokyo.ac.jp](mailto:cedep@p.u-tokyo.ac.jp)

【参考】「幼保小の架け橋プログラム」



＜担当＞ 初等中等教育局幼児教育課
佐藤、前田、松谷（内線 3724）
電話 03-5253-4111（代表）

- 幼保小の架け橋期（5歳児から小学校1年生までの2年間）の教育の充実を図り、全ての子供に学びや生活の基盤を育む「幼保小の架け橋プログラム」を実施するため、文部科学省において、令和4年3月に、「**幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）**」と「**参考資料（初版）**」を作成
- 令和4年度から、「全国的な架け橋期の教育の充実」と「モデル地域（19自治体）」における先進事例の実践」を並行して推進
- 各自治体において実施する「幼保小の架け橋プログラム」の取組は次のとおり
 - ・0歳から18歳の発達や学びの連続性を踏まえ、**5歳児のキャリアと小学校1年生のキャリアを一体的に捉え、地域の幼児教育と小学校教育の関係者が連携・協働して、キャリア・教育方法の充実・改善を促進**
 - ・3要領・指針、特に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の正しい理解を促し、教育方法の改善に生かしていくことができる手立てを普及
 - ・架け橋期に園の先生が行っている環境の構成や子供への関わり方に関する工夫を見える化し、家庭や地域にも普及

地域における体制のイメージ

自治体：地域の全関係機関の参画による「幼保小の架け橋期のキャリア」の開発、実施、評価・改善

○架け橋期のキャリア開発会議

- 【構成員】**
- ・幼稚園、保育所、認定こども園、小学校
 - ・教育委員会、子育て担当部局
 - ・教員等養成や研修に関わる大学や専門学校
 - ・幼保小の関係団体
 - ・保護者や地域の関係者
 - ・架け橋期のコーディネーター（有識者）

様々な立場から意見や事例（動画や画像を含む）を出し合って話し合う



【取組内容】

- 手引きや参考資料を活用しつつ、**架け橋期のキャリア**の開発
- キャリアの実施に必要となる研修、教材としての環境の活用等の開発
- 持続的・発展的な架け橋期のキャリアに必要な支援
- 国による架け橋期の教育の質保障の枠組みからの助言や各園・校等の実践の検証結果を踏まえ改善

- ・架け橋期のキャリアを踏まえ、教育課程編成・指導計画作成、実施、改善
- ・各園・校において、接続をコーディネートする者の明確化
- ・持続的・発展的に実施する組織体制の構築

	0歳～	5歳児	小学校1年生	小学校2年生～
共通の視点として考えられる項目例		4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	
①期待する子供像				
②遊びや学びのプロセス				
③園で展開される活動/小学校の生活料を中心とした各教科等の単元構成等				
先生の関わり				
④指導上の配慮事項				
⑤子供の交流				
⑥家庭や地域との連携				
...				

開発会議で開発する架け橋期のキャリアのイメージ

